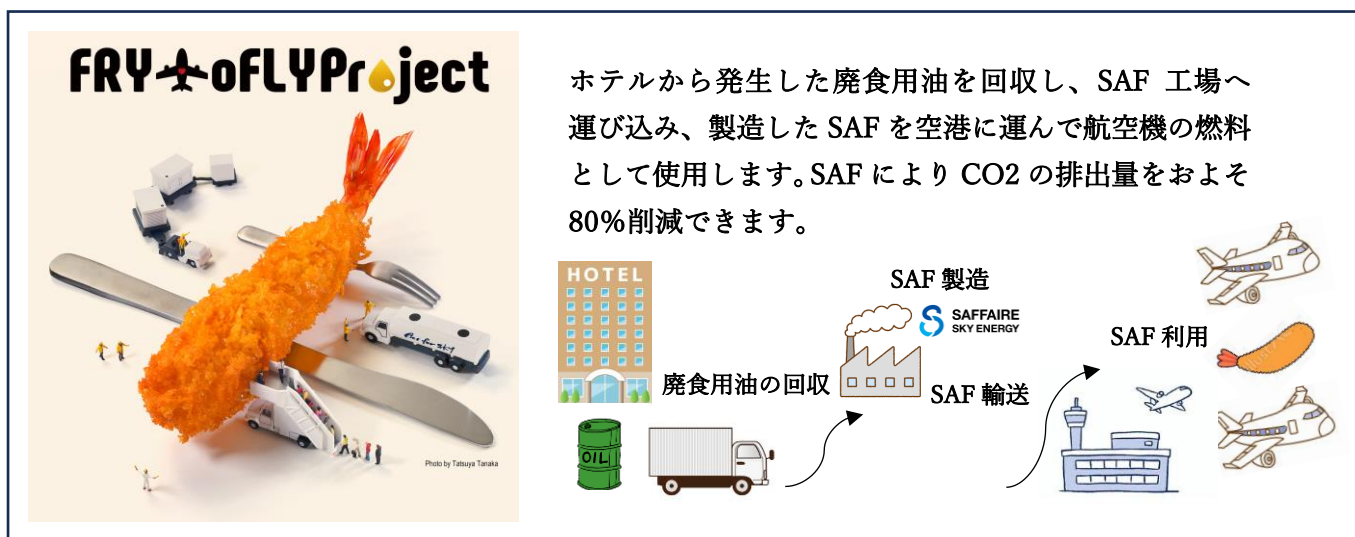


ホテルの廃食用油で空を飛ぶ！ 日本ホテル協会が「Fry to Fly Project」に参画

一般社団法人日本ホテル協会（会長：定保英弥 帝国ホテル代表取締役社長）は、廃食用油を原料として持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel：SAF）を製造することにより脱炭素社会を目指すプロジェクト「Fry to Fly Project」に参加します。

2025年から合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（サファイア スカイ エナジー）による日本で初めてとなる国産 SAF の量産開始が予定されています。宴会場やレストランを持つホテルの厨房からは毎日大量の廃食用油が発生します。これを回収して SAF を製造、航空機を運航すれば、CO2 排出量の削減に資するほか、廃食用油の有効活用にもなります。日本ホテル協会会員ホテルの中には既に廃食用油の回収への協力を始めたホテルもありますが、今後は協会として231の会員ホテルに対し、廃食用油の回収への協力を呼びかけてまいります。



<Fry to Fly Project について>

家庭や店舗などで発生する廃食用油という国内資源を原料とする SAF で、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト。日揮ホールディングス株式会社が提唱・事務局を務める。趣旨に賛同する企業、自治体、団体が参加して様々な活動を行っている。

廃食用油を原料とした国産 SAF は、日揮ホールディングス株式会社、コスモ石油株式会社および株式会社レポインターナショナルの3社により設立された「合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY」により、2025年度初頭から製造・供給が開始される予定。

詳しくは、以下の特設 HP を参照ください。

<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>

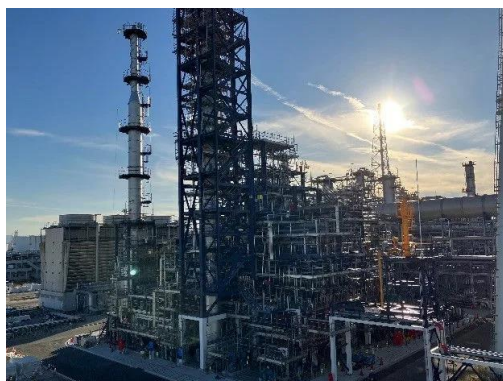


<SAF（持続可能な航空燃料）について>

SAF とは、持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel）の頭文字。従来のジェット燃料が原油から精製されるのに対して、廃食用油、サトウキビなどのバイオマス燃料や、都市ごみ、廃プラスチックを用いて生産される。廃棄物や再生エネルギーが原料のため、ジェット燃料と比較して大幅な CO2 削減効果がある。国は 2030 年までに本邦エアラインによる燃料使用量の 10%を SAF に置き換えるという目標を設定している。

【国内初の国産 SAF 大規模生産事業について】

日揮ホールディングス、コスモ石油、レポインターナショナルは共同で、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約3万キロリットルの SAF の供給を目指しています。現在、コスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設を進めており、2025年度初頭に供給開始を見込んでいます。



建設中の SAF 製造装置



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設

【本件に関するお問合せ】

一般社団法人日本ホテル協会

TEL:03-3279-2706

Email: jha@j-hotel.org